

3. ウイルス性肝炎について

1. 原因及び感染経路

肝炎には、黄疸やだるさ、食欲がなくなるなどの症状の強い急性肝炎と、あまり症状はないけれど放っておくと進行して肝硬変や肝臓癌になることもある慢性肝炎があります。

日本での肝炎の原因はほとんどが“肝炎ウイルス”によるもので、ここでは血液や体液を介して感染するB型とC型を取り上げます。いずれも血液や体液から感染しますが、感染者の血液が健康な皮膚や手についただけでは感染はしませんし、唾液でも同様です。しかし皮膚に傷があったり、注射針が刺さる等、感染者の血液が直接体内に進入すると感染を起こすことがあります。

2. ケアの具体的方法と注意

基本はきちんと手洗いをする事です。血液、体液に触れる可能性のあるケアを行う時は必ず使い捨て手袋（ディスポーザブル手袋）を着用しましょう。

- ①歯ブラシ、カミソリなど血液が付着する可能性のあるものは原則として共用せず、髭剃り時の出血を予防する為には電気カミソリの使用が望ましく、個人専用とします。それ以外の日用品は、一緒に使用しても構いません。入浴も同様です。
- ②清拭・入浴介助は通常通りに行い、終了後に手洗いを行ないます。
- ③排泄介助・オムツ交換は出血がある場合〔血便や、床ずれからの浸出液（傷から染み出る液）、月経血等〕は手袋を着用します。
- ④汚物の付着したオムツや生理用ナプキンなどの廃棄についてはむき出しにならないように新聞紙などでしっかりくるんでから、通常のゴミとして捨てましょう。
- ⑤食器は通常の洗浄と乾燥で問題はありません。
- ⑥洗濯は通常通りで構いません。

但し、血液が付着している洗濯物の場合は0.1%~0.5%次亜塩素酸ナトリウム（ブリーチ・ハイター等）液に30分浸けてから洗濯をして乾燥して下さい。

《0.1%次亜塩素酸ナトリウム液の作り方》

- 準備する薬剤：5%の次亜塩素酸ナトリウム（例：家庭用塩素系漂白剤キッチンハイター、キッチンブリーチなど）
- 水500mlあたり漂白剤のキャップ2杯（10ml）を混ぜる（濃度1000ppmに相当）

- ⑦トイレ掃除・お風呂掃除は通常の掃除で問題はありません。
- ⑧外傷、あるいは鼻血などが出た場合は、出来るだけ本人が自分で手当てをし、また、緊急的に介護者が一時的な手当てをする場合は、手袋を使用し、手当てをする人に血液や分泌物が付かないように注意しましょう。

⑨ B型肝炎の予防としてワクチンがあります。 希望される場合は医療機関にご相談ください。

※神戸市では、B型肝炎抗原検査、C型肝炎抗体検査を無料で受けることができます。各区役所もしくは、神戸市保健所で発行された受診券を持って市内医療機関（緊急肝炎ウイルス検査委託医療機関）にて受診できます。詳しくは、各区役所もしくは神戸市保健所予防衛生課（TEL 078-322-6789）へお問い合わせください。

3. 家族への説明

家族間においても介護する上においては、上記のような事に注意していれば感染を予防することができます。

また、B型肝炎患者の親族のワクチン接種に要した費用は、医療費控除の対象となる場合があります。

4. 介護者の安全対策

- * 目に血液・分泌物が入った時 ⇒ 直ちに洗面器 1 杯程度の流水で充分洗った後、眼科受診をしましょう。
- * 糖尿病がありインシュリンの自己注射などを行っている感染者に用いた注射針を、室内掃除中に誤って刺した時 ⇒ 急いで傷口から血液を絞り出し、石鹼や流水で洗い流し、消毒液（消毒用エタノールなど）で消毒した後、診察を受けましょう。

以上のような時は、職場の上司に報告をして診察を受けてください。しかし、在宅では感染力の強い要介護者と接する機会は少ないと思われます。基本は感染源の血液に素手で触ることを避け手洗いを心がける事です。くしゃみ、咳、食べ物、飲み物、食器やコップの共用、日常の接触では感染しません。神経過敏になり過ぎないように注意しましょう。

5. その他

1) 症状について

急性期には風邪症状、発熱、全身倦怠感があり、黄疸が見られます。慢性化すると無症状で経過する場合も多く、したがって自分でわからない間に進行する場合があります。

2) 治療について

- ・ 安静（十分な睡眠をとる。肝機能障害が軽度の場合は通常どおりの生活が可能）
- ・ 食事療法（症状を進行させるアルコールは避ける）
- ・ 合併症の予防
- ・ 定期的を受診し、肝機能状況を見ながら薬物療法等を受ける。